

事後評価書

要因 事業	(1) 事業概要	(2) 事業による環境の変化	(3) 事業を巡る社会経済情勢の変化	(4) 事業により整備された施設の維持管理状況	(5) 県民の意見																																				
農業 農村 整備 事業	<p>○事業名 県営中山間地域総合整備事業</p> <p>○路線名及び地区名 厳木地区</p> <p>○所在地 唐津市</p> <p>○工期</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初工期 H12～H16 ・変更工期 H12～H16 <p>○総事業費</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当初事業費 1,500,000千円 ・変更事業費 1,553,000千円 <p>○事業内容</p> <p>【農業生産基盤整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業用排水路 1,386m ・農道 3,088m ・ほ場整備 12.0ha ・農地防災 ・ため池 1ヶ所、排水路 202m ・暗渠排水 1.8ha <p>【農村生活環境整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業集落道 1,645m ・営農飲雑用水 2ヶ所 ・交流施設基盤 1ヶ所 ・施設間連絡道 363m ・活性化施設 1ヶ所 ・動物誘導柵 2,750m <p>○関連する事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業（波瀬2期） ・農業集落排水事業（天川） <p>○背景</p> <p>本地区は、唐津市の南部に位置する中山間特有の地域であり、農地の区画形状は不整形で狭く、排水状態も悪い。また、農業用排水路の老朽化による漏水や農道の幅員が狭く未整備であるため、効率的な営農ができない状況にあった。</p> <p>農村生活環境は、集落内の道路が狭く、車両の離合や緊急車両の進入に支障を来していた。また、農業用水は溪流・生活用水は浅井戸に頼り、干ばつ期には水不足が懸念されていた。さらに、地域住民の交流の場が少ないなど農業・農村の活力が低下していた。</p> <p>○目的</p> <p>ほ場整備や農業用排水路などの農業生産基盤や農業集落道路や活性化施設などの農村生活環境基盤の整備を併せ行い、中山間地域の特性を活かした農業の展開と豊かで活力ある農村づくりを図った。</p>	<p>○社会文化環境</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道や集落道の改良により、道路環境が改善された。 	<p>○社会情勢の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世帯数は増加しているが人口は減少傾向にあり少子高齢化により人口が減ってきている。 ・農業経営者の約5割が60歳以上となっており、高齢者の増加や後継者不足が深刻となっている <table border="1" data-bbox="1261 556 1795 892"> <thead> <tr> <th></th> <th>H12</th> <th>H17</th> <th>H22</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人口 (人)</td> <td>131,437</td> <td>128,564</td> <td>127,967</td> </tr> <tr> <td>世帯数 (戸)</td> <td>42,362</td> <td>43,119</td> <td>44,823</td> </tr> <tr> <td>農家数 (戸)</td> <td>4,655</td> <td>4,131</td> <td>3,677</td> </tr> <tr> <td>農家人口 (人)</td> <td>9,613</td> <td>8,508</td> <td>7,479</td> </tr> <tr> <td>同上60歳以上 (人)</td> <td>3,877</td> <td>3,580</td> <td>3,212</td> </tr> <tr> <td>高齢化率</td> <td>40%</td> <td>42%</td> <td>43%</td> </tr> <tr> <td>農地面積 (ha)</td> <td>8,030</td> <td>7,452</td> <td>7,220</td> </tr> <tr> <td>戸当たり農地面積 (ha/戸)</td> <td>1.8</td> <td>1.8</td> <td>2.0</td> </tr> </tbody> </table> <p>(唐津市) 統計年報</p>		H12	H17	H22	人口 (人)	131,437	128,564	127,967	世帯数 (戸)	42,362	43,119	44,823	農家数 (戸)	4,655	4,131	3,677	農家人口 (人)	9,613	8,508	7,479	同上60歳以上 (人)	3,877	3,580	3,212	高齢化率	40%	42%	43%	農地面積 (ha)	8,030	7,452	7,220	戸当たり農地面積 (ha/戸)	1.8	1.8	2.0	<p>○施設管理状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農道や農業集落道は受益者により共同で草刈り(年3回程度)が行われている。 ・農業用排水路は受益者により草刈り(年2回程度)や泥上げ(年1回程度)が行われている。 ・ため池は、受益者により草刈り(年2回程度)が行われている。 ※維持管理面では「農地・水・環境保全向上対策」、「中山間地域直接支払制度」を活用している。 ・営農飲雑用水は、管理を唐津市に移管しているが日常的な管理は地区で管理している。 ・活性化施設は地区で管理している。 ・交流施設基盤(多目的広場)は、地区による草刈りが行われている。  	<ul style="list-style-type: none"> ・農道および集落道が整備され、移動が便利になった。 ・ほ場整備により、狭小で傾斜の大きな農地が平らになることで、マルチ等の施工が容易になり高品質の農産物(みかん)の栽培が出来るようになった。 ・ため池の改良および排水路の設置により、水源の確保と農地災害の防止が図られ安心して営農できるようになった。 ・営農飲雑用水施設ができ、生活用水の不安が解消できた。 ・暗渠排水により農地の排水が良くなり、ハウス栽培(いちご)がやりやすくなった。 <p>マルチ栽培とは 農業用マルチフィルムをミカンの根本に張ることで太陽光、水分量調整を行い色づきを良くし糖度高める栽培方法です。</p>
		H12	H17	H22																																					
人口 (人)	131,437	128,564	127,967																																						
世帯数 (戸)	42,362	43,119	44,823																																						
農家数 (戸)	4,655	4,131	3,677																																						
農家人口 (人)	9,613	8,508	7,479																																						
同上60歳以上 (人)	3,877	3,580	3,212																																						
高齢化率	40%	42%	43%																																						
農地面積 (ha)	8,030	7,452	7,220																																						
戸当たり農地面積 (ha/戸)	1.8	1.8	2.0																																						
<p>(6) 事業の効果</p> <p>○事業の直接的効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・農業生産基盤の整備により、営農形態の多様化への対応が可能になった。 ほ場整備実施の地区では、条件の整った農地を活用し多種多様な農産物(野菜等)の栽培形態へ変化してきている。また、直売所へ出荷を行う農家も増えてきており、農家の所得安定につながっている。 ・活性化施設においては、伝統芸能(子供浮立)の保存・伝承活動を中心に地域内の連帯感の醸成、集落の活性化が図られている。 	<p>(7) 地域住民との関わり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業の整備計画は、唐津市(旧厳木町)、商工会、JA、農業委員会及び集落毎の推進協議会等により組織された厳木町産業振興協議会(以下、協議会)が地域住民の意向を十分に聞いた上で策定している。また、事業実施段階においても、再度、集落説明会を開催するなど協議会が調整役を果たすことで円滑な事業実施を可能とした。 ・地区内の天川区では、特別栽培研究会が設立され平成19年度から福岡市や佐賀市の都市住民を対象とした都市農村交流活動を行っている。主な内容は、田植えや稲刈り等の農業体験や天衝舞浮立の見学で、毎年約70名の参加がある。  	<p>(8) 今後の課題等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地区内にある施設等については今後も継続的に維持管理を実施していくことが重要であるが、高齢化などにより継続した活動に支障を来す恐れがある。 ・交流施設基盤(多目的広場)については整備当初は小学生を対象に自然学習等の場として利用していたが、近隣小学校の統廃合により利用者が少なくなっていることから、今後の利活用を検討することが必要である。 ・協議会が主体となり地域住民の意向に沿った施設整備に取り組んできたが、社会情勢等の変化により利用が低迷するなどの課題が発生した際、その利活用を検討する組織が存在しない。  <p>多目的広場(佐用姫生誕の碑)</p>	<p>(9) 新規箇所評価、再評価への反映、改善点等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・棚田等の農地や土地改良施設の維持管理については、農家ばかりでなく非農家を取り込んだ共同活動による維持管理の体制をつくり活動の継続を図る必要がある。 ・中山間地域総合整備事業を推進してきた協議会を存続させるなど、事業完了後も各種課題に対応できる仕組づくりが必要と考えられる。 																																						